



CHIHOMEN NEWS

2019年12月26日 Vol.45

和歌浦エリアのマラソンイベント 観光振興に向けたプロモーション

市職員とちほめんがランナーを演じてプロモーション



和歌山市長より感謝状を授与 6メディアより取材



大阪都心の大型ビジョンで放映



地域アイドルグループとTie-up



4月中旬、和歌山市スポーツ振興課の池田氏より、20年近い歴史を持つマラソンイベント「和歌浦ベイマラソンwithJAZZ」のコースガイド映像制作依頼を受諾。

紀の川市の定住映像企画報道を見ての依頼とのことで、ジャズマラソンは過去1.3万人ほどのエントリーがあったものの、ここ3年は毎年連続千人余り減っており、何とか減少を食い止めたいという想いを伺い、それならば単純なコースガイドではなく、本格的なプロモーション映像を制作することを提案しました。

また池田氏の想いの背景には、マラソン参加を通して和歌浦地域への観光など、交流人口を増やしたいとする地元愛があり、マラソン終了後にすぐ帰ろうとする車の渋滞を見ては、寂しさを募らせてしまうといった話を伺いました。

そこで、マラソンランナーへゴール地点の和歌山マリーナ島内を散策するスポットを案内できるような、観光振興映像も盛り込むことに。

フィールドワークで差別化できる魅力を

即日、池田氏と若手を含むメンバー4人でフィールドワーク。コースに精通する池田氏のアイデアに加え、市外出身のちほめんだから有する外部の目線で、単に海の美しさだけでなく、他のマラソンコースにない、差別化できる魅力を探ります。



例えば何気なく横目に入った、古さを感じつつも美しいアーチ型の石橋。池田氏に伺うと、市の重要文化財である不老橋だそうで、日本遺産にも選ばれた和歌浦の歴史を感じるコースポイントとして収録を決定するなど、様々な観点からシーンの検討を重ねました。

五月晴れの中、早朝から市より3人、ちほめんより4人のメンバーが集まり、撮影開始。雑賀崎の美しい港町をはじめ、和歌浦の緑がかったエメラルドの海を見下ろしながら疾走するメンバー。ドローンが併走しながら、最高の画角でランナーと風光明媚な景色を捉えていきます。



和歌山市職員とちほめんが力をひとつに和歌浦を走る

山上ルートを抜けて現れるのは、遮るものがない、空まで続きそうなストレート。コースの中で、最も海を間近に感じる片男波海水浴場から不老橋を経て、ゴールの和歌山マリーナ島に続くサンブリッジへ。終盤に厳しい坂道が待っていましたが、市職員とちほめんがお互いに声を掛け、力を合わせてゴールに向かって駆け抜けました。



ゴール後のご褒美、和歌山マリーナ島の散策観光スポットの紹介映像。マラソンウェアから普段着になった市の女性職員が、ちほめん女性メンバーと愉しげに散策します。BGMとして、ジャズマラソンの複数の給水ポイントで実際に演奏する和歌山ジャズプレイヤーズ協会会長が率いるバンドによる生演奏を収録。マリーナ島が持つ華やかさを演出しました。



ポルトヨーロッパや黒潮市場等の商業施設に加えて今回は、美しいクルーズが係留されたマリーナや、子供も親しめる海水浴場など、あまり知られていない、隠れたスポットを掘り起こしました。

映像は「Wakaura Blue」と銘打って完成し、同市公式YouTubeで公開。完成試写会には4大紙をはじめテレビ局を含む6メディアが取材。冒頭の映像パッケージ贈呈で少し緊張したメンバーも、試写映像に驚きの声を上げる尾花市長の笑顔を見て、安心したようにホッと一息。



また光栄にも、市長からちほめんメンバーへ、感謝状を授与いただくことに。当局の地方創生企画では初の栄誉で、メンバー一同恐縮しきりでしたが、市の活性化のお役に立てたひとつの証として、また、今後も当所のちほめんが地方創生支援への取り組みを続けていく大切な礎として、感謝を込めて受領しました。

和歌山市長より感謝状を授与

ジャズプレイヤーズ協会とマリーナ島を華やかに演出

栄えある感謝状に報いるべく、マラソンの公式スペシャルサポーターである、和歌山在住の小学生～大学生メンバーで構成されたアイドルグループ FUN×FAM とタイアップし「FUN! & RUN! エントリーキャンペーン」を市の池田氏と実施。

- ① タイアッププロモーション映像制作
 - ・ FUN×FAM がライブパフォーマンスで応援する CHEERING PV。
 - ・ コースポイントの解説動画も制作
- ② 市公式 Twitter カウントダウン映像配信
 - ・ 締切前 20 日間に渡り、日めくりでエントリー喚起メッセージを配信。



プロデューサー御協力のもと、ポルトヨーロッパ内の専用劇場で収録。躍動感の高いライブをマラソン映像と融合、クロマキー撮影（背景透過）により、和歌浦の映像を背に応募メッセージを発信する映像を制作。セリフ原案は、ちほめんが池田氏とともに作成。地域を愛する学生メンバーが、若い感性で原案を懸命に磨いて暗記し、自分の言葉として表現していく姿には感動を覚えました。ちほめんも、観光振興の想いを込めたメッセージを発信。



地元の学生で構成するローカル
アイドルグループとタイアップ

同キャンペーンの目玉は、大阪都心部での大型ビジョン放映。JR和歌山駅前の大型ビジョンや東京都内の行政電子掲示板の放映に加え、県外のターゲット向けに1分CMを制作し、難波・梅田の交差点で放映(7月13～21日)。特に難波の大型ビジョンは混雑する人で溢れる戎橋。

三連休で極めて多数の歩行者が目にしたほか、信号待ちの中、会話を止めて見入る方もおられ、和歌浦の景観が訴求する実力を認識。マラソンエントリーだけでなく、この映像が和歌浦地域へ観光で訪れるきっかけとなれればと願っています。



難波・梅田の交差点
大型ビジョンで放映

3年ぶりにエントリー
減少への歯止めを実現

締切時点でエントリーは9128人と、昨年(9139人)に僅か及びませんでした。3年間連続で千人規模で減少してきた傾向に、何とか歯止めをかけることができたとのことで、お力になれて嬉しい限りでした。

ジャズマラソン当日も、当所所長をはじめ、6人の職員が参加し、全員が完走。今後も引き続き、観光振興をはじめ様々な面で和歌山市の地方創生を支援していければ幸いです。



CHIHOMEN
NEWS